

アジアを結ぶ？「一帯一路」の地政学

日 時： 2017 年 11 月 18 日（土）13:30~16:30

会 場： 東京国際フォーラム ガラス棟 G610

主 催： 渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

フォーラムの趣旨

中国政府は2013年9月から、シルクロード経済ベルトと海上シルクロードをベースにしてヨーロッパとアジアを連結させる「一帯一路」政策を実行している。「一帯一路」政策の内容の中心には、中国から東南アジア、中央アジア、中東とアフリカを陸上と海上の双方で繋げて、アジアからヨーロッパまでの経済通路を活性化するという、習近平（シーチンピン）中国国家主席の意欲的な考えがある。しかし、国際政治の秩序の視点から観れば、「一帯一路」政策が単純な経済目的のみを追求するものではないという構造を垣間見ることができる。

「一帯一路」政策は、表面的にはアジアインフラ投資銀行（AIIB）を通じた新興国の支援、融資、そしてインフラ建設などの政策が含まれており、経済発展の共有を一番の目的にしているが、実際には、貿易ルートとエネルギー資源の確保、そして東南アジア、中央アジア、中東とアフリカにまで及び広範な地域での中国の政治的な影響力を高めることによって、これまで西洋中心で動いて来た国際秩序に挑戦する中国の動きが浮かび上がってくる。

本フォーラムでは、中国の外交・経済戦略でもある「一帯一路」政策の発展を、国際政治の観点から地政学の論理で読み解く。「一帯一路」政策の背景と歴史的な意味を中国の視点から考える基調講演の後、日本、韓国、東南アジア、中東における「一帯一路」政策の意味を検討し、最後に、4つの報告に関する議論を通じて「一帯一路」政策に対する日本の政策と立ち位置を考える。

プログラム

《開会》13:30

総合司会/モデレーター：平川均（Hitoshi Hirakawa）国土舘大学 21 世紀アジア学部教授

挨拶：今西淳子（Junko Imanishi）渥美国際交流財団関口グローバル研究会代表

《基調講演》13:40~14:00

「一帯一路構想は関係諸国がともに追いかけるロマン」

朱 建栄（Prof. Jianrong ZHU）東洋学園大学教授

「一帯一路」構想は急に出てきたものではない。アイディア面では 20 世紀冒頭に岡倉天心が提起した「アジアは一つ」の理念、孫文が呼びかけた「大アジア主義」、1980 年代に日本が提唱した「環太平洋経済協力構想」などが背景にあり、実行の基盤においては戦後日本がリードしたアジアの「雁行」的發展、情報化時代の到来、中国の経済大国化の過程で得た経験と教訓などが支えになっている。「一帯一路」の推進には、特に各国間の共通意識の形成と補完的協力が必要である。その意味で、それは関係諸国がともに追求するロマンでなければならない。

《研究発表1》14:00~14:15

「戦後日本の対外経済戦略と『一帯一路』に対する示唆」

李 彦銘（Dr. Yanming Li）東京大学教養学部特任講師

本報告は日本によるプラント輸出戦略（1970年代後半）とニューエイドプラン（New AID Plan,1987）を中心に、まずは日本経験と中国の『一帯一路』イニシアチブとの類似性と比較可能性を論じる。その後、対外経済戦略が地政学的影響に転換する際の主な制限を分析し、日本経験から、中国の行動が今後地域に対する影響を展望する。

《研究発表2》 14:15~14:30

「米中の戦略的競争と一帯一路：韓国からの視座」

朴 榮濬 (Prof. Young June PARK) 韓国国防大学校安全保障大学院教授

中国の国力が浮上するにつれて、アメリカと中国の間では、グローバルな次元で戦略的な競争の様相が表れている。その中で2013年度から中国が「一帯一路」を唱えている。従来「一帯一路」の政策は経済的な側面が強調されてきたが、この発表では「アメリカのグローバル覇権に対する中国の地政学的戦略」とする観点から解釈する。その上で、北朝鮮の問題を解決しなければならない韓国側の立場や政策を提案する。

《研究発表3》 14:30~14:45

「『一帯一路』の東南アジアにおける政治的影響：ASEAN 中心性と一体性の持続可能性」

古賀 慶 (Prof. Kei KOGA) シンガポール南洋理工大学助教

中国の「一帯一路」政策は、東南アジアの経済発展に貢献する可能性を示す一方、他方でその恩恵を受ける国家は一樣ではなく、ASEAN 諸国の対中政策は徐々に変化が見られている。結果、地域主義を現在まで牽引してきた ASEAN 中心性と一体性の持続可能性が今、問われている。

《研究発表4》 14:45~15:00

「『一帯一路』を元に中東で膨張する中国：パワーの空白の中で続く介入と競争」

朴 准儀 (Dr. June PARK) アジアソサエティ

現在、中国は「一帯一路」の政策をもとにした外交を中東で展開している。単純に経済的な利益を求めるためではなく、地政学的にも影響を与えるための努力を果たす中国を分析する。日本と韓国のエネルギーの主なソースである地域である中東に近づいている中国を、これからどう見るか。

【コーヒーブレイク】 15:00~15:20

《フリーディスカッション》 15:20~16:30

「アジアを結ぶ？『一帯一路』の地政学」

— 討論者を交えたディスカッションとフロアとの質疑応答 —

討論者：西村豪太 (Gouta NISHIMURA) 『週刊東洋経済』編集長

《閉会》 16:30

閉会挨拶：角田英一（渥美国際交流財団事務局長）

記：フォーラムの内容は、後日 SGRA レポートとして出版します。

講師略歴

<朱 建栄 (しゅ・けんえい) Prof. Jianrong ZHU>

華東師範大学 学士

上海国際問題研究所付属大学院 修士

総合研究開発機構 (NIRA) 客員研究員

学習院大学 博士号 (政治学) 取得

現在：東洋学園大学教授、国際アジア共同体学会副理事長

専門分野：中国の政治外交史、現代史、東アジアの国際関係

主な著作：

『毛沢東の朝鮮戦争—中国が鴨緑江を渡るまで』(単著、岩波書店、1991年、翌年の大平正芳記念賞受賞)、『中国外交 苦難と超克の100年』(PHP研究所、2011年)ほか多数。

<李 彦銘 (り・えんみん) Dr. Yanming Li>

北京大学 国際関係学院 学士

慶應義塾大学 法学研究科 修士

慶應義塾大学 法学研究科 博士

現在：東京大学教養学部特任講師

専門分野：日中関係、政策形成過程、国際政治経済

主な著作：『日中関係と日本経済界——国交正常化から「政冷経熱」まで』(単著、勁草書房、2016年)、『中国対外行動の源泉』(共著、慶應義塾大学出版会、2017年)ほか。

<朴 栄濬 (パク・ヨンジュン) Prof. Young June Park>

延世大学政治外交学科、

ソウル大学大学院外交学科 修士

東京大学 総合文化研究科 博士

アメリカ ハーバード大学 訪問学者

韓国平和学会会長、外交部の政策諮問委員

現在：韓国 国防大学校 教授

専門分野：日本の安全保障政策、東北アジア国際関係、韓半島の安全保障

主な著作：「海軍の誕生と近代日本」(2014年)、「第三の日本」(2008年)、「韓国国家安保戦略の展開と課題」(2017年)

<古賀 慶 (こが・けい) Prof. Kei KOGA>

アメリカ タフツ大学フレッチャースクール博士号取得

現在：南洋理工大学 (シンガポール) 助教 (Assistant Professor)

専門分野：国際関係論、国際安全保障、国際制度、東アジア、日米関係、ASEAN

主な著作: *Reinventing Regional Security Institutions in Asia and Africa: Power shifts, ideas, and institutional change* (Routledge, 2017)、 「『安全保障化』のツールとしての地域機構：ASEANとECOWASの比較検証」『国際政治』189号(forthcoming)、 “Transcending the Fukuda Doctrine: Japan, ASEAN, and the Future of the Regional Order” (Center for Strategic and International Studies, 2017)など。

<朴 准儀 (パク・ジュンイ) Dr. June Park>

高麗大学 政治学 学士

高麗大学 国際政治学大学院 碩士

ボストン大学 政治学大学院 博士号取得

東京大学 社会科学研究所 訪問研究員

日本国財務省 財務総合政策研究所 訪問研究員

北京大学 国際関係学大学院 高級进修生

シンガポール国立大学 李光耀行政政策大学院 博士後課程フェロー

現在： アジアソサエティ

専門分野：国際政治経済、貿易保護主義、エネルギー（東アジア、中東）

主な著作：

(Forthcoming) 'A Cautionary Tale of Market Power and Foreign Policy: Beyond the Geoeconomics of Renminbi Internationalization', in Tomoo Kikuchi and Masaya Sakuragaya eds., *China and Japan in the Global Economy, Routledge Series in the Modern World Economy*, December 2017.

(Forthcoming) 'Securing Energy in a Power Vacuum: Northeast Asia's Varying Strategic Engagement in the Middle East', with Emma Ashford, in Tim Niblock eds., *The GCC and the Indian Ocean: Economic Opportunities and Political Challenges* (TBD).

SGRAとは

SGRAは、世界各国から渡日し長い留学生活を経て日本の大学院から博士号を取得した知日派外国人研究者が中心となって、個人や組織がグローバル化に立ちむかうための方針や戦略をたてる時に役立つような研究、問題解決の提言を行い、その成果をフォーラム、レポート、ホームページ等の方法で、広く社会に発信しています。研究テーマごとに、多分野多国籍の研究者が研究チームを編成し、広汎な知恵とネットワークを結集して、多面的なデータから分析・考察して研究を行います。SGRAは、ある一定の専門家ではなく、広く社会全般を対象に、幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動を狙いとしています。良き地球市民の実現に貢献することがSGRAの基本的な目標です。詳細はホームページ (www.aisf.or.jp/sgra/) をご覧ください。

SGRAかわらばん無料購読のお誘い

SGRAフォーラム等のお知らせと、世界各地からのSGRA会員のエッセイを、毎週木曜日に電子メールで配信しています。SGRAかわらばんは、どなたにも無料で購読いただけます。購読ご希望の方は、ホームページから自動登録していただけます。